

Update the Value Standard

早川浩士
(有) ハヤカワプランニング
代表取締役

は、接触8割減なら15日程度、7割減なら34日程度」と示した専門家の見解が脳裏を掠め、「経済活動の再開によって人の賑わいが戻ったことで第二波の流行懸念が拭えない」と集団感染の不安を感じながら、「新しい生活様式」を受け容れた日常が始まった。コロナ禍中の施策など試行錯誤が続く。

東京アラート

予言書として注目を集める『首都感染』（講談社）は、中国で発生した謎のウイルスの場面から始まる。著者・高嶋哲夫氏は、「不要不急、感染爆発、濃厚接触、飛沫感染と言った単語が（小説には）頻繁に出てくる。現実と（

ほぼリアルタイムでストーリーは進んでいる。もし政府の人たちが去年の段階で、この本を読んでいたなら感染を防ぐ意識の手本になったのではないかと手記（※1）を綴った。また、「ウイルスの恐ろしさを知り、対処の仕方を知ってほしい。感染防止、収束に役立つはずだ。（小説は）恐ろしい結

果で終わっている。そうならないためにも我々は何をすればいいのだろうか」とも記していた。5月25日、政府による緊急事態宣言が解除されたものの、東京都は6月2日に新型コロナウイルスの感染再拡大の兆候があるとして都独自の警戒情報「東京アラート」を発動し、11日には「東京アラ

ート」を解除した。レインボーリッジは警戒を示す赤色から、感染状況の落ち着きを示す虹色に変わった、いや戻った。翌12日には「東京アラートの運用を事実上終了すること、見直すこと」などを発表した。緊急事態宣言時に「感染拡大を一定程度まで抑制できる期間（

オンライン会議

6月1日、コロナ禍の影響で中断していた次期介護報酬改定に向け議論していた社会保障審議会介護給付費分科会が、オンライン会議で約2カ月ぶりに開かれた。この数カ月、自粛の言葉に窮屈さを感じた人は少なくない。

「窮すれば通ずるか、 窮すれば濫るか」

Profile

はやかわひろし●経営コンサルタント。「継栄と人財創造塾」主宰。『介護ビジョン』編集委員。介護福祉教育マスター。著書に『データで徹底分析介護事業の最新動向と経営展望』、『99の言葉の杖』（いずれも日本医療企画）、『介護保険改正に勝つ！経営』（年友企画）など。本誌にて『経営（継栄）のツボ』を創刊から200回（16年8カ月）連載
URL www.hayakawa-planning.com

「窮すれば通ず（※2）」という故事がある。原文は、「窮すれば則ち変じ、変ずれば則ち通ず、通ずれば則ち久し」とある。「窮」と「通」の間に「変」という工程が加わる。仮に「事態が行き詰まって困るときと、かえって活路が開けるものである」と、安易な解釈をして

いたとしたら心もとない。ウィズコロナ、アフターコロナが飛び交う昨今だが、「変」を避けていては経営が危うい。業績が悪化すれば、資金繰りなど目先のことに囚われて視野が狭くなり、理念やビジョンが影をひそめる。「窮すれば濫る（※3）」の至言を肝に銘じたい。

※1 出典：講談社現代新書ホームページ（<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/71920>）より
※2 出典：中国古典『易経』
※3 意味は、追い込まれると平常心を失って自暴自棄に陥ってしまうこと。出典：中国古典『論語』